

パトロールをやめて美術館へ：アートは警察官の観察眼を育てる

By SARAH LYALL

2016年4月26日

見落してしまいがちな物事の細部に、いかに気づくか。視覚認知の専門家エイミー・E・ハーマンは、その方法を教えるために美術館でアート作品をみせる。

先日、ハーマンはメトロポリタン美術館でニューヨーク市警の警察官たちに作品をみせ、それを言葉で描写させるというプログラムを実施した。警察官は熱心に取り組んだ。ある者は、馬が市へと連れて行かれるときの、半ば混乱した光景が描かれたローザ・ボヌールの19世紀半ばの絵画《The Horse Fair（馬市）》を前に、「これは男たちと馬の絵のようだ」と述べた。作品を説明する際には事実だと断定するような言い方（例えば「明らかに」などの言葉）を避けるようにというハーマンの指示に従い、彼はこう続ける。「時間は昼間のようです。そして、馬は左から右へと進んでいるようにみえます。」

別の一組は、ピカソが1905年に描いた《At the Lapin Agile（ラパン・アジールで）》を鑑賞している。夜も更けた頃だろうか、フレンチ・バルの一角に座る少し疲れた様子の男女が描かれた作品だ。「彼らは口論をしていたようだ。」ひとりがそう言うと、もう一方の警察官が続ける。「男女は連れのようなけれど、男の方はこの後ソファで眠ってしまいそうに見える。」

警察官たちは、記者との会話を禁止されているために、名前は伏せてほしいと言いながらも、実は自分たちはアートには全く詳しくないと語ってくれた。余暇に美術館に行くということもほとんどないと言う。しかしハーマンは、「むしろそういった人たちのほうが好ましい」と述べる。

「これまでもアートは嫌いだという人はいましたが、私は、好き嫌いに関係ないと答えます。」さらに彼女は続ける。「これはポロックとピカソを比較する授業ではないし、アートについての知識を教えるものでもありません。新たな情報の組み合わせとして作品をみることで、頭をリセットして、仕事に役立つスキルを獲得すること。私が目指しているのは、皆さんが美術館を後にするとき、これまでとは違う視点で仕事に取り組むことができるという状況を作ることです。」

絵画には、文化の産物や美の対象、時と場所への洞察、あるいは商品としてなど実に多くの機能がある。ハーマンによると、絵画は視覚情報の宝庫であり、それは例えば、殺人現場でのアプローチ如何と同様、事実を解明する手助けとなり得る。彼女はインタビューの中でこうも語る。「絵画は私たちの想像力を大いに刺激すると同時に、分析的に物事を探求するにもぴったりです。何がみえている？それらはなにを物語っているの？といった具合にね。」

メトロポリタン美術館での鑑賞に入る前に、ハーマンは美術館の地下にある教室で、ジョン・シングルトン・コブリーが1773年に描いた肖像画《Mrs. John Winthrop (ジョン・ウインスロップ夫人)》のスライドをみせながら警察官たちに話した。小さな果物を手に持ち、テーブルの前に座っている女性が描かれたこの絵画は、夫人のガウンに施されたレースの複雑さや帽子の豊かな装飾など、その緻密さから細部描写の傑作とみなされている。しかし、自明の事実だと思っただか、あるいはそれほど重要ではないとの判断からか、この絵を描写するときにたいいていの人々が言及しない箇所があると言う。

「皆さん、果物を持った女性が描かれているということは理解するのですが、マホガニーのテーブルについては80%の人が触れてくれません。」(テーブルの天板に映り込む女性についても同様だ。)

次に、横たわる裸婦が描かれた二作品、ゴヤの《The Nude Maja (裸のマハ)》(1797-1800)と、ルシアン・フロイドの《Benefits Supervisor Sleeping (眠る給付金管理者)》(1995)を投影しながら、両者を比較するようにと警察官たちに投げかけた。ちなみに、後者に描かれている裸婦は非常に太っている。大抵の警察官は「結婚前と結婚後の姿」と答えるという。

何人かの手が挙がった。ひとりが「うーむ、下の作品の女の方が豊満な身体つきをしている」と言うと、「ちょっと病的に太りすぎだ」という意見を述べる人もいた。それを聞いた彼女は、彼らに向けてこう述べる。「いいですか！最適な言葉を選ばなければいけません。あなたの口から出る全ての言葉においてね。」

今年、『Visual Intelligence: Sharpen Your Perception, Change Your Life (視覚的知性: 知覚を磨いて人生を変えよう)』を出版したハーマンは、紆余曲折を経て今の職業にたどり着いた。彼女はもともと弁護士だったがその仕事を好きになれず、ブルックリン美術館の助成金や寄付金を獲得する部署で働き始める。その後、ニューヨークにある美術館、フリック・コレクションに転職。ニューヨーク市立大学夜間部で美術史の修士号を取得し、最終的には同美術館の教育部部長を務めるに至る。

そんな中で彼女は、医療現場において患者をよりよく観察するために美術作品を鑑賞するというエール大学医学部の試みに触発されて、フリック・コレクションでも同様のプログラムを実施すべく、その開発に携わった。この手法を用いて2011年からは、医学生や企業経営者だけでなく、FBIなどの連邦調査局や州警察の職員をトレーニングする仕事を始めた。

テキサス州グランド・プレイリー市警察の署長スティーブ・ダイは、つい先日ハーマンを招聘した。管轄地域の警察官に向けて行われた彼女の講義は、現場をよりよく観察し、それらを偏見なく記録するための方法を彼らに気づかせるのに、すこぶる有益だったと彼は言う。

「彼女がみせてくれたアート作品の中には、プロの観察者であるべきはずの私たちが気付くことができなかった細かな要素がいくつもあった。」

グループで作品を解説する際、人は職業によって異なる反応をする傾向がみられるという。「警察官たちは非常に積極的です。口では彼らに勝てません。それに比べ医者や医学生ははるかに消極的です。間違えたくないという気持ちや、自分が知らないということが他人にバレるのを避けたいという意識が働くのでしょうか」と、ハーマンは言う。

ニューヨーク市警は彼女にとって最も重要な顧客のひとつだ。受講者の職務によってプログラムの内容は工夫されており、刑事部と警察学校教育部には定期研修の一環として、また他の部署では随時実施されている。参加は基本的に義務ではなく任意だ。

警察官ヘザー・トトロはこう述べる。「エイミーは私たちに、固定概念を外して探索することを気づかせてくれました。」このプログラムは独自性があり有効的で、研修中の警察官の役に立っていると言う。「第六感を働かせること、そして私たちがそれについてどう思ったかではなく、みたことを伝えるということを教えてくれます。」

警察官や刑事は、誰が何を誰に向けて行ったのか、犯人はどこにいるのかなど、職業というレンズを通して作品をみる傾向にあるという。「時おり彼らは、『ここに E.D.P. (錯乱状態にある人物) がいる』などと言います。」かつて警官たちにエル・グレコの《The Purification of the Temple (神殿の清め)》をみせた時のことだ。これは騒乱の最中、イエス・キリストが商人と両替商を追い払う姿を描いた絵画だ。「ある警察官が作品をみながら『このピンク色の男を逮捕したい』と言いました。それってイエスのことです。『だって、明らかに彼がすべての問題を引き起こしている中心人物だから』だそうです。」

数ある作品の中で、ハーマンが学習ツールとして最も興味深いと思うのは、1666-1667年にフェルメールによって描かれた《Mistress and Maid (婦人と召使)》だ。そこにはテーブルの前に座り、謎めいた1枚の紙を召使に手渡している婦人(あるいは召使から手渡されている)が描かれている。「この作品からは、実に多様な物語が考えられます」と彼女は言う。「分析能力の高い人なら、この作品から読み取ることのできる要素よりもさらに多くの疑問を抱くと思います。誰が質問をしているのか、話しているのは誰で、どちらがそれを聞いているのかってね。でも、そういう能力のない警察官なら『召使が休暇を求めているんだ』って答えるかもしれません。」

ジェームス・ローゼンクイストが1981年に描いた《House of Fire (火の家)》も、彼女が好む作品のひとつだ。この絵には一見全く文脈のない3つのモチーフ—さかさまになった食料品袋、ブラインドの下に置かれたバケツ、ぐっと突き出した何本もの口紅—が描かれている。「この絵は、よい対話を生み出してくれます」と彼女は言う。「警察官たちがどれほど、事件現場の混乱から秩序を構築しなければならないか。私たちも仕事をする中で、脈絡のない物語に頻繁に出くわしますよね。」

メトロポリタン美術館でトレーニングを受けた警察官たちは、ハーマン自身、そして美術館の壮大な雰囲気に関銘を受けたようだ。ひとりの警察官は「いかに同僚と膝を突き合わせ、そしてそれぞれが全く異なったことに気づいているという事実、いかに対処するか」ということを学んだと述べる。メトロポリタン美術館どころか、そもそも美術館という場所に足を踏み入れたのは今回が初めてだというこの警察官は続ける。「何が起こるのか、予想もつきませんでした。でも、映画《華麗なる賭け》(※)みたいでした。そういませんか？」

※《華麗なる賭け》1968年公開の、天才銀行強盗と保険調査員による駆け引きを描いたサスペンス映画。その後1999年にリメイクされた際には、舞台をメトロポリタン美術館に、主人公の設定も銀行強盗から美術品泥棒に変えて製作された。

出典

“Off the Beat and Into a Museum_ Art Helps Police Officers Learn to Look” The New York Times, 2016-04-26

URL : <http://www.nytimes.com/2016/04/27/arts/design/art-helps-police-officers-learn-to-look.html>